[当日追加資料]　私的な詩学

「終章　文化と癒し――拘束と超越のあいだ」『深層文化から頂点文化まで――日本研究へのいざない』（アマゾンキンドル版、提携ODP版、2021～2022予定）

和歌（詩歌、芸術）のポエティックスのさまざまな切り分け方

主題を作品に仕上げること（実作）、作者と作品のつながり、方法の自省（歌論、詩学）

☞エリオットの聴覚的想像力、折口信夫の「聴覚による写生」の位相のちがい

和歌の作品の心と、作者の心

和歌と癒しのつながり

「体験型」　人（作者）は世界をどう体験する傾向があるか？

「身体境界」に注目

「バリアスコア←→境界浸透度スコア」「内から外へ」「外から内へ」

（津城『鎮魂行法論』（1990a、280～284、289、367～375）津城『折口信夫の鎮魂論』（1990b、172～183、202～208、226～243））

自らの身心の境界はバリア機能が低く、浸透的、透過的であり、また「内から外へ」「外から内へ」の体験が揺らいでいる

身体（身心）境界の透過性や体験のゆらぎが、アトモスケープの経験に直結

「日守麟伍は何をどう詠んでいるのか？」一般詩学ではなく、私的な詩学

１）身心のタイプ

「体験型（Erlebnis tyups, experience type）」（ロールシャッハ）

「バリアスコアbarrier score←→境界浸透度スコア “penetration of boundary” score」

近代ではロンブローゾの天才や狂人、犯罪者の研究

画期となったクレッチマーの体格（体質）論

発展したシェルドンの体質心理学

クレッチマー

体型Körperbau 肥満型、闘士型、細長型

気質Temperament 循環気質、粘着気質、分裂気質

シェルドンW. H.

身体類型somatotype

内胚葉型endomorphy、中胚葉型mesomorphy、外肺葉型ectomorphy内胚葉型

それぞれの型の極端extreme（典型）～３要素のさまざまな割合の混合

体格・体質と性格・気質については、オルダス・ハクスリーがどこかで肯定的に言及

「ソマトタイプにおける遺伝的なちがいと、気質のちがいとには、はっきりした関連性がある」（ハックスリー、ジュリアン「心理代謝」Psychometabolism

☞漢方の陰陽五行に基づく複雑なタイプ論、インドのタイプ論

三木成夫、「遠」を観得する植物的要素と「近」を感受する動物的要素として、人体構造の中に植物器官としての内臓系と動物器官としての体壁系として刻み込まれている

「和歌における「遠を観得する」植物的な要素／「近を感受する」動物的な要素とは何か？」（井上ウイマラ氏指摘）

ゲーテのモルフォロギー、原形　原植物

三木、「生命記憶」「深層」「地球史」「人類精神史」「古生物学」（三木成夫『胎児の世界 : 人類の生命記憶』中公新書 1983）

どこの深層の「生命記憶」か？　200年前（フォークロアでたどれる深度）、数千年前（古代史）、数万年前（人類史）、数億年前（古生物学）……

古代人、深層人、動物層、植物相　→　鉱物層　→　エレメント　→　プリマ・マテリア

「月の砂漠」と「椰子の実」……数千年前へのノスタルジア、日本人（文化）起源論

２）体験のタイプ

身心のタイプが、体験の仕方、つまり体験型に関連する（モデル的には自明）

クレッチマー

「直接体験は＾「自我」と「外界」という両極＾の複合体＾（両極は）幅のある周辺領域＾＾自我が外界から作用を受容すれば「反映過程」＾外界に作用を及ぼす時には「表現課程」となる＾＾心的現象の第三のグループとして＾情動性＾「欲求と気質」の諸機能がこの情動性に属している＾」

ジュリアン・ハクスリー

「知覚アウェアネスすなわち心の機関である脳＾経験によってえた素材を、独特の知覚型にかえる＾心理代謝

知覚の組織化＾エネルギーに相似＾心的エネルギーpsychergyという術語がよい

心理代謝の問題の核心＾人間がどうすればその内面生活を統合できるか＾情緒的＾知的＾より高い合成へみちびく＾多様性を調和＾包括的な統一

神秘論者＾平和で力強い内面＾深い静寂と高い心的エネルギー」

「心理代謝」が「遺伝子によって方向づけられている」（野村理朗）

３）きわめて個人的な詩学「日守麟伍はどこに位置しているのか？」

二分法の組み合わせ、入れ子、反転、反復、共存、重複、多重性

膨張性・収縮性　抽象・感情移入　覚醒・陶酔　求心的・遠心的　集中・拡散　拡大・縮小

ユングの心理学的タイプ論、内向的（introvertiert）外向的（extravertiert）

思考（Denken）、感情（Fühlen）、直観（Intuition）、感覚（Empfinden）

作品のタイプ

宇宙史、地球史、自然史、生命史、文明史、精神史、思想史、文学史

形而上詩、自然詩、叙事詩、抒情詩、叙景詩

名前のない芸術史、国籍のない民俗学

ワーズワースの自然詩nature poetry

『ティンターン修道院Tintern Abbey』

高くそそり立つ断崖……風景を空の静寂に結び合わせる

祝福された気分……調和の力と深い喜びの力とによって鎮められた眼をもって、われわれは万象の神髄を透視する

自然は私たちのうちなる精神を教え……高邁なる思いで養い……

自然の崇拝者であった私が自然を崇めるためにこの地に来た

『序曲』

人生に点在する原体験spots of time

われわれの心を育みそっと癒してくれる力　喜びを高めるその力

（津城注、作品の中に詩論がある、和歌であれば歌論か、詞書になる）

エズラ・パウンドの記名と無名

『大祓いLustra』

墓碑銘。そして李白も酔って死んだ　黄河に映る月を　彼は抱こうとして（黒光る　水面に映る　月影を　恋ふる歌人や　酔ひて溺るる）

やや宇宙的な古代人の夢。荘周は夢を見た・・

地下的の駅で。俳句の影響、ダンテの本歌取り、文学史的な固有名詞を隠す。

『詩編The Cantos』「歴史を含む叙事詩」先行作品の本歌取り、固有名詞

「イメージとは、瞬間のうちに知的・情緒的複合を表現するもの」『イマジズム』

日守麟伍のアトモスケープ歌、弔い歌、祈り歌

無名の時代や地域、無名の死者生者の、生きられた時空間、原風景、原体験の記録